

Heartful Communication Magazine

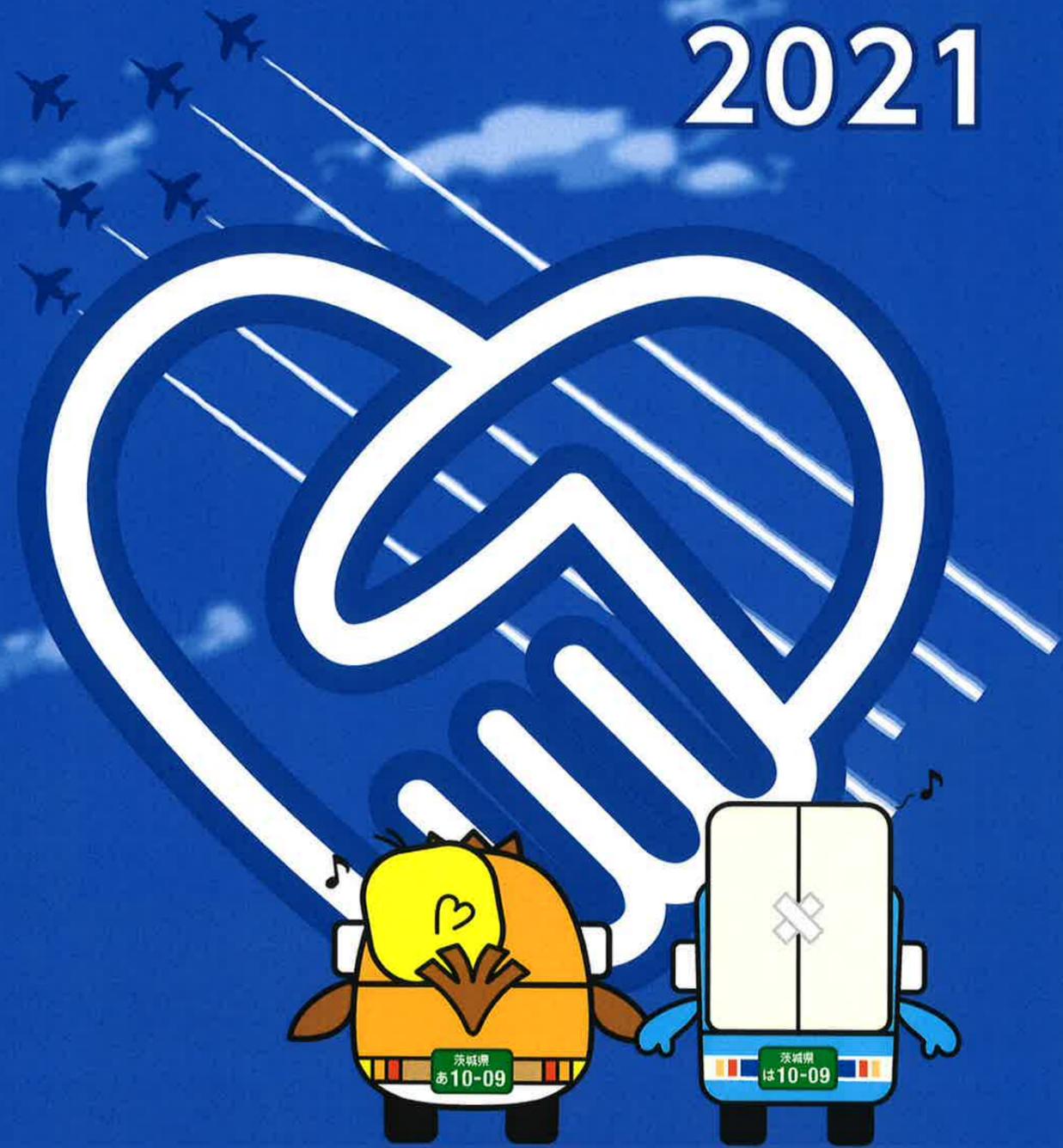
# レインボーウェイ

## 2021

Heartful Communication Magazine

# レインボーウェイ

## 2021



一般社団法人茨城県トラック協会





## CONTENTS

物流はエッセンシャル・ワーク	4
コロナ禍でますます重要性を増す日本の医療を支える GDP(医薬品適正流通基準)を考慮した医薬品物流	
茨城のくらしと産業を支える物流最前線	6
地元の大手家電メーカーのトータル物流を担う 生産物流、調達物流だけでなく梱包箱の包装設計なども	
安全に取り組むトラック運送業界	8
デジタルタコグラフやドライブレコーダーで安全管理 社会的信用の向上に「G」マーク認定を取得	
環境にやさしいトラック運送業界	10
「ルールは守る」が会社の基本姿勢 運送業界関連の資格は全部取得する方針	
茨城の物流を担うエッセンシャル・ワーカー	12
大型トラックのドライバーは中学生のころからの憧れ 「下の子が高校を卒業してから」念願の職業に 西村恵美(にしむら・めぐみ)さん	
茨城の物流を担うエッセンシャル・ワーカー	13
アパレル関係で働いていたが先行きが不安に 数年前から転職を考えコロナを機にトラックドライバーに 渡邊陽一(わたなべ・よういち)さん	
社会との共生	14
「事故なし、おおりなし、コロナなし」 道の駅「グランテラス筑西」で地元産の梨を配布	
会長からのメッセージ	15
エッセンシャル・ワーカーとしての誇りと責任をもって トラック運送業界は物流を止めません 一般社団法人 茨城県トラック協会 会長 小林幹愛	



5台、4トン車5台、10トン車5台の計16台です。このうち1トン車は冷蔵仕様でプラス2℃〜プラス25℃まで温度調節でき、それ以外のトラックは冷凍・冷蔵仕様で、マイナス20℃からプラス25℃までの温度調整ができます。一般薬局で市販している薬や家庭で常備している配置薬など、何の温度表示もない薬は1℃〜30℃の保管で大丈夫です。だが、ワクチンの注射薬などは決められた温度を少しでも外れると成分が変化して効能が無くなってしまう。中には0℃〜5℃で禁凍結などといった温度管理の難しい薬もあります。そのため輸送中のトラックの庫内は温度マッピングなどで厳しく管理しています。この運送会社では国内の製薬メーカーや輸入された医薬品を全国に運んでいますが、北海道にはフェリーを利用するのでフェリー対応のプラグも備えています。

従業員はドライバーが10人とファーマクロスドックの作業員が4人います。トラックの台数よりもドライバー数が少ないのは、人命にもかかわる医薬品を運んでいるために予備のトラックを保有してバックアップ体制を敷いているからです。

# 物流は エッセンシャル・ワーク

コロナ禍でますます重要性を増す  
日本の医療を支える  
GDP(医薬品適正流通基準)を  
考慮した医薬品物流



## ESSENTIAL WORK

「物流を止めるな」はトラック運送業界の合言葉です。新型コロナウイルスに感染しないための防止策を施しながら、日夜、私たちの生活や経済活動に必要な様々な荷物を運んでいます。トラック運送は医療機関などと同じエッセンシャル・ワークとしての社会的役割を担っているからです。コロナ禍で医療体制が注目されていますが、日本の医療を陰で支えているのが医薬品物流です。茨城県トラック協会には約1600社が加盟して様々な荷物を運んでいます。医薬品物流を専門にしている稲敷市の運送会社を訪ね、厳しい温度管理などについて話を聞きました。

この会社は医薬品物流が専門で、会社の敷地にあるファーマクロスドック(医薬品温調庫)を運営し、専用のトラックを持って医薬品輸送をしています。他にもスイスの会社の医療用温度計の日本における正規代理店や、ドイツの会社の温調コンテナ(真空断熱パネルを使ったコンテナで蓄冷材で温度管理)の国内における管理業務を受託しています。さらに製薬会社、病院、物流会社、空港内の施設などの温度マッピング(保管場所やトラックの庫内などの空間における温度分布の計測)の業務もしています。

保有しているトラックは1トン車1台、3トン車



Forefront  
of  
logistics

茨城の暮らしと産業を支える

# 物流最前線



## 地元の大手中家電メーカーのトータル物流を担う 生産物流、調達物流だけでなく梱包箱の包装設計なども

茨城県トラック協会には約1600の事業者が加入しています。これらの運送事業者は県内で製造された製品を日本全国に運び、海外に輸出する荷物なら国際港まで運びます。逆に海外から輸入された荷物や国内で製造された製品を茨城県内に運び、県内各地に配送するような仕事もしています。そのような会員事業者の1社を訪ねました。この会社は日立市に本社がありますが、今回訪問したのは多賀営業所です。この営業所は地元の大手中家電メーカーの工場内にあり、洗濯機などの白物家電を主に運んでいます。それだけではなく、場内のいろいろな作業を請けたり、梱包箱の包装設計などもしています。

常陸多賀駅の近くにある大手中家電メーカーの多賀事業所（工場）では、洗濯機、乾燥機、掃除機、炊飯ジャー、電子レンジ、IHクッキングヒーターなどの家電製品を製造しています。この営業所は、取引先の大手中家電メーカーの仕事を受託しています。

事業者は輸送はもとより、工場の製造過程の一部、製品の梱包、フォークリフトによる出荷作業、全国の物流拠点への輸送、海外に輸出される製品の東京港へのコンテナ輸送、さらに製品を出荷するために必要な梱包資材の材質や強度、トラックへの積載率を考慮した包装設計までしています。

上海やタイなどで製造された製品は東京港やひたちなか港（※）その他日本主要港から国内物流拠点に納品されますが、梱包状態に問題ないかなど品質のフォローもします。

また、これらの製品の物流だけでなく、海外で作られた部品の納期管理や輸入手配、納入調整などの調達物流も行っています。

工場からの国内輸送を見ますと、この営業所が担当しているのは拠点間の幹線輸送です。多賀事業所から栃木県、愛知県、大阪府、広島県、福岡県、北海道、沖縄県にある物流拠点に、積載効率を高めるような工夫をしながら運びます。北海道には大洗港（\*）からフェリーを利用して運びます。全体の出荷量は1日平均では大型車で40〜60台ですが、家電の販売量が増えるボーナス月や年末商戦、春の引越シーズなどは2倍ぐらいの台数になります。

各地の物流拠点からは家電販売店などに配送されることとなりますが、この営業所では荷扱の指導も行っています。たとえばドラム式の洗濯機では重さが100kgぐらいになりますから荷扱いも難しいためです。

安全と健康は全てに優先するをモットーに「心を運ぶ」をみんなの合言葉とし、お客様に「安く、早く、そして確実に！」をお届けする為、日夜作業に当たっています。

（\*正式には茨城県常陸那珂港区、茨城県大洗港区です）

安全に  
取り組む  
トラック  
運送業界



# デジタルタコグラフやドライブレコーダーで安全管理、社会的信用の向上に「G」マーク認定を取得

安全性優良事業所（Gマーク）は、安全性に対する法令順守の状況、事故や違反の状況、安全性に対する取り組みの積極性の3項目の評価が一定の点数以上で、その他の要件もクリアすると全国貨物自動車運送適正化事業実施機関が認定する制度です。認定を受けた事業所に所属するトラックには「G」マークのステッカーが付いています。有効期限があつて、継続するには更新申請が必要です。

トラック運送会社は安全対策に全力で取り組まなければなりません。高萩市のこの会社は、昔から安全管理に努力してきましたが、そのようなかで2017年12月にGマーク認定を取得しました。Gマークを取得することで「社会的信用を向上」するためです。

この会社は大型増し車を2台と、4車4台で、建築資材や銅線などを運んでいます。いずれも地元にある工場で作られた製品です。このうち銅線は滋賀県の彦根にある拠点まで幹線輸送をしています。また、建築資材はボンド状の製品をタタミ工場や建築資材の間屋などに運んでいます。輸送エリアは関東全域のほか、中部地域では名古屋まで、信越地方では長野や新潟、南東北の山形、岩手、宮城、福島などです。

この会社では長距離輸送もありますので、10数年前からデジタルタコグラフやドライブレコーダーを導入し、速度や燃費などのデータに基づいて、ドライバーに安全運転を徹底してきま

した。個別指導は対面点呼の中で、また、2、3カ月に1度は全員を対象に安全指導をしています。

このような教育、指導を通してドライバーの人たちは会社の代表という意識を持っています。そのため「納品先のお客さんが、運送会社は当社をと指名してくれることもある」といいます。このような信用を「そう強いものにするためにGマークを取得しました。」





## 「ルールは守る」が会社の基本姿勢 運送業界関連の資格は 全部取得する方針

グリーン経営(環境負荷の少ない事業経営)は、ISO14031(環境パフォーマンス評価)に関する国際規格の考え方に基づき、環境保全のために必要な項目や目標を設定し、一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を交通エコロジー・モビリティ財団が認証する制度です。

牛久市にあるこの運送会社は、「ルールは守る」は先代からの基本姿勢です。そして「業界に関連する資格があれば取得する方針」で臨んでいます。このようなことからGマークはもとより、グリーン経営の認証も2010年2月に取得しました。グリーン経営の申請では、さほど苦勞なく認証されました。また、茨城エコー事業所登録証も持っています。

この会社の保有車両数は、トレーラも含めて51台です。メインに輸送している製品は精密機械の部品と製品です。部品輸送では、関東一円の部品製造工場から集荷して、取手、常総、岩間、阿見、宇都宮などの工場に納品。また、製品は工場から販売会社の拠点に輸送しています。この販売会社はメーカーのグループ会社です。また、販売会社との契約で消耗品を保管したり、全国にあるメーカーの営業所への輸送も担当し、代替えした古い機器の収集もしています。消耗品は関東一円なら自社のトラックで、それ以外の地域には外部の運送会社に委託して運びます。輸出入の荷物のコンテナ輸送も行っています。

環境にやさしい運転や安全運転などは、具体的なデータに基づいて指導するようにしています。また、この会社では一般道は60km/h以下(法定速度以下)、高速道路は80km/hと社内決めていきます。そしてスピード、アイドリング、急停車、急発進、その他のデータに基づいて毎月、ドライバーを表彰しています。



# 大型トラックのドライバーは中学生のころからの憧れ 「下の子が高校を卒業してから」念願の職業に

西村恵美(にしむら・めぐみ)さん

「中学生のころから大型トラックに乗りたいと思っていました」と語るのは西村恵美さん。23歳の長男と22歳の長女がいますが、「下の子が高校を卒業してから」念願のトラックドライバーになりました。現在は筑西市にある運送会社に勤め、大型増上車に乗務して、ユニットバスを近県に運んでいます。

筑西市出身の西村さんは、最初は地元の測量設計会社に勤めました。結婚して一時的に仕事を辞めていましたが、子供を預けることができる仕事に就いていました。その後、病院で介護士の仕事をしていました。普通運転免許は18歳で取っていましたが、介護士の仕事を辞める前に大型免許を取りました。



念願のトラックドライバーとして働くようになったのは長女が高校を卒業してから。最初は4人車でしたが、現在の会社に移り大型増上車に乗るようになりました。

朝は7時と9時出勤のバターンがあります。出社すると点呼を受け、出発前の準備をしてトラックを発車。隣のつくば市に向かいます。最



初はサイクルの段ボールや空のパレットを降し、その後、工場に行きます。待ち時間はほとんどなく、パレット積み込みのユニットバスをフォークリフトで積んでもらいます。運ぶ先は埼玉県の戸田市や越谷市、千葉県の八街市、東京の三多摩地区などにある物流センターです。到着時間も午後に着けば良いという緩やかなもので、荷降ろしも待ち時間がほとんどないため「精神的に余裕を持って働けるので、毎日が楽しい」と言います。夕方5時か7時に会社に帰るとい毎日はです。

# アパレル関係で働いていたが先行きが不安に 数年前から転職を考えコロナを機にトラックドライバーに

渡邊陽一(わたなべ・よういち)さん

生まれは千葉市ですが小学校5年生の時に水戸市に引っ越してきた渡邊陽一さん。アパレルの小売りチェーンで5店舗ほどを統括するエリアマネージャーでした。高齢化や人口減少などアパレル業界の先行きと今後の自分の人生を考え、「3、4年前から転職を考えていた」と話しています。そこでコロナ禍を機にトラック



昨年の夏前に転職した渡邊さん。現在は水戸市内にある運送会社でトラックドライバーとして働いています。渡邊さんが毎日運んでいるのは医薬品です。アパレルで働いていた当時は「物流に興味はあったが、あまり良いイメージはありませんでした」という。では、なぜ現在の会社に入ったのでしょうか。「求人を見ていたら医薬品配送と書いてあったからです」。アパレルは少子高齢化や人口減少でマーケットが徐々に縮小していくと不安でした。しかし、医薬品の輸送なら将来も大丈夫と考えました。

出勤は早く午前0時ごろには事業所を出発します。しかし仕事の終了も早く、午前9時から9時半には会社に帰ってきます。仕事の流れは、事業所から4人車に乗務して埼玉県の加須市に行く。取引先の拠点から医薬品を積み、加須ICから矢板ICまでは東北自動車道を利用して栃木県的那須町に運びます。帰りは常陸大宮市を経由して事業所に戻ります。

「夜中の出発なので最初は大変だったが今では慣れました。土日と祝日が休みなので、今では2人の子供(6歳と3歳)と休みの日に遊べるので楽しいです」といいます。今後は大型免許を取って、大型トラックにも乗務したいと話しています。



発行日 2021年3月31日

発行所 一般社団法人 茨城県トラック協会

取材協力 (順不同)

- 大隅物流 有限会社
- 高萩商事 株式会社
- 八紘運輸 株式会社
- 日立アプライアンス 株式会社 多賀事業所
- 株式会社 日立物流東日本
- 株式会社 マルイワ
- 水戸急送 株式会社

制作 有限会社 物流ジャーナリスト倶楽部

スタッフ Design by maxDesign

Photo & Text by F.Morita

(写真の一部は取材先からの提供もあります)

一般社団法人 **茨城県トラック協会**

〒310-0913 水戸市見川町2440-1

TEL 029-303-6363 FAX 029-243-5936

ホームページ <http://www.ibatokyo.or.jp>

〈無断転載禁ズ〉



## 会長からのメッセージ

### エッセンシャル・ワーカーとしての 誇りと責任をもって トラック運送業界は物流を 止めません



一般社団法人 茨城県トラック協会  
会長 **小林 幹愛**

トラック運送は国内貨物輸送の9割以上を担っている基幹産業です。皆さんの日常生活に欠かせない消費財や、企業の経済活動に必要な様々な荷物を運んでいます。

また、最近は大きな自然災害が頻発するようになりました。トラック協会は国や都道府県、市町村などと協定を結び、会員事業者は緊急物資輸送でも重要な役割を果たしています。まさにライフラインの一翼を担う産業です。

さらに昨年来、世界中に新型コロナウイルスが蔓延し多くの人たちが感染しています。お亡くなりになった方々も多数に上り、心よりお悔やみ申し上げます。1日も早くコロナが終息することを望みます。

このコロナ禍の中で、「エッセンシャル・ワーカー」という言葉を耳にするようになりました。ご存じのようにエッセンシャル・ワーカーとは、私たちの生活に欠かすことのできない職業についている人たちのことです。医療関係者、介護・福祉関係者、小売業、公共交通機関などの仕事に従事している人たちです。これらの人たちと同じように、トラック運送や物流業界で働いている私たちもエッセンシャル・ワーカーです。コロナに感染するリスクがあっても物流を止めるわけにはいきません。私たちは感染防止策を講じながら、皆さんの生活や経済活動に必要な不可欠な商品や物資を運んでいます。

しかし、そのように重要な役割を果たしているにもかかわらず、残念なことに心無い言葉を投げかけられることもあります。これはトラック運送や物流業界に対する誤解などによるものと思われます。「レインボーウェイ」は、一人でも多くの皆さんに私たち業界の本当の姿を紹介したいという目的で発行しています。

とくに若い皆さんにはトラック運送の仕事を知っていただき、エッセンシャル・ワーカーとして私たちの業界で力を発揮されることを願っています。



茨城県トラック協会では様々な社会貢献活動を通じて、社会との共生に努めています。トラック協会の中には女性経営者で構成する女性部会があります。女性部会は2018年に創設され、研修会や交流会、社会貢献活動などを行っています。社会貢献活動では女性部会創設の翌年に筑西市にオープンした道の駅「グランテラス筑西」において、筑西警察署との共催により、道の駅を訪れたドライバーに地元産の梨を配布して、交通事故防止を呼び掛けました。2回目となる昨年も梨の旬を迎えた9月に実施しました。



グランテラス筑西は大きな道の駅です。スペースが広く、大型トラックが駐車して休憩しやすくなっています。大型トラックが43台駐車でき、シャワー室もあることから大型トラックのドライバーに好評です。これは設計段階からトラック運送業界の意見も聞き大型トラックでも利用しやすく作られているからです。そこで女性部会では筑西警察署と共催で、道の駅の利用者に梨を配布しながら交通事故防止を呼び掛けることにしました。梨は「交通事故なし、あおりなし」という意味です。また、昨年はコロナ禍で「コロナなし」の意味も込めました。さらに、配布した梨は県西地域の特産品ですから、地元への貢献にもなります。参加者はコロナ禍にあっても物流を止めることなく、くらしと産業を支えているエッセンシャルワーカーのトラックドライバーの人たちにも、感謝を込めて梨を配布しました。用意した400個の梨は、交通事故防止を訴えながら30分余りで配り切りました。

# 「事故なし、あおりなし、コロナなし」 道の駅「グランテラス筑西」で 地元産の梨を配布

